



いきいき心理セミナー報告

今年の夏の「いきいき心理セミナー」は、参加者が少なかったため、2日間の予定を8月6日(日)の1日に短縮して開催されました。会場は、岐阜県中津川市付知町の標高700mほどの山間で、自然に親しみながら行われました。また、少人数のメリットを生かした深い意見交換が行われました。その様子を紹介します。



ご参加の皆様

カウンセリングの技術

H：最近やっていることってある？

A：実は、ホストの技術を勉強しているんですよ。

H：そんなの効果あった？

A：ありましたよ。夫婦けんかばかりしていたのが改善されました。まあ、基本的にはカウンセリングなんですけど。「聞く」「守る」のふたつです。

K：そうだね、しっかり聞いてやることで相手の事を思っているんだよという気持ちが伝わるよね。

A：いえ、そんなにしっかり聞くんじゃなくて、「聞いているふり」なんですけど、聞いているような、聞いていないような、でも聞いているという、そんななんですけど。しっかり聞いちゃうと本気になってしまっ悪くすると言い合いが始まってしまう。

S：そういえば、同じような話をNHKでやってたぞ。江戸時代だったか、米沢藩に婿入りした上杉鷹山の話だけど、領主のくせにすぐ、家臣に「すまん」と謝ってしまう。

K：家臣にしてみれば、鷹山はよそ者で、「うちの藩のことをしっとるのか？」というわけだ。それで反発がごうごうと出る。

S：「すまん」と謝りながらも、藩財政を立て直す行政改革はどんどんやってしまう。よそから来ただけに見えるのだね。

H：いや、それだとどこかの首相みたいにどんどん勝手に悪い方へ行かないか。

S：そうじゃなくて、既得権を主張する家臣が多すぎて、そこがその藩の財政を圧迫していたんだ。

こどもは変わったか？

K：ところでAさん、教師しているけど、ここんとこ子どもが変わって来たんじゃない。コミュニケーション力が弱くなっているような...

A：Kさんだって元教師じゃないですか。変わっていませんよ。二十年前の十三歳と今の十三歳は変わってません。

K：以前の子どもだったら、自分たちで話し合いして、親分のような子がいてまとめて... というようなことがあったと思うんだが。

A：不登校やいじめのことを言うんなら、昔もありましたよ、その当時はだれも振り返りもしなかったけど。あんなの場所の問題だと思いますよ。

H：いや、わたしはね、ひとあじ違う教師になりたいと思ってた。それで弱い子を守ること

を中心にすえていたね。

K : 今は知識を中心にすえているけど、そのまえに大切なことがあるんじゃないか。

A : お互いの情報交換も知識の伝達とういことだと思うんだけど。そういう力は今も昔も変わりません。持ってます。学校ってもともと明治のときに工場でつくる製品の質を一定にするために作られたんじゃないですか？ふるいにかけるためでしょ。

K : たしかにそういう面もあるかもしれないけど、お互いに助け合う力をつける、という意味も持ってると思う。

A : いじめという面で考えるなら昔もあったし、例えば、おとなしい鳩でも狭い檻に十羽でも押し込めればいじめあい、つきあいは始まるんで、学校という形態自体がそういうことを誘発するんじゃないですか。たぶん、ひとりひとりにコンピュータの端末でも与えれば、いじめの問題もなくなるし、学習効果も上がるんじゃないですか。

K : そうだね、そういう学校、私立にあるし、でもそれでは教育じゃない、と思うんだな。

A : 問題なのは、知識を身につけるためだけに学校へ行って、そのまま上の学校へ上がっちゃうということですか？

S : さっきの上杉鷹山と同じで、

A : 一般の人々のことがわからないまま上層部へ行ってしまう。政治家になってしまう。

K : そうそう、そういうことを言ってるんだよね。ぼくらのころはお互いにコミュニケーションをとって解決していったことが、いまの学校じゃ大切にされない。

A : でも、社会で必要とされる知識の内容も変わっていますよ。昔は科目に技術とかがあって、いわば、手作業で協力して製品を作ることが要求されたけど、今は機械がやりますもん。必要とされる能力が違い過ぎる。プログラミング力とか、そういう才能をピックアップするための教育が必要とされてるんじゃないですか？

K : しかし、一見むだなように見えることでも大切なことがあるんじゃないかな？むだなように見えて、教育的な、我々を豊かにするような。そこらへんがいまの学校ではどうなってるんだろうね。

教育と医療

A : 話は変わりますが、僕のいまむかっていることという、タックスヘブンに住んでる人達のことなんですけど。あいつら、税金は払わないように、払わなくてもいいようなところに住んでいて、世界の金があるところや、石油の出るところへ飛んでいっては、財を搾り取ってくる、そんなやつらなんですよ。

K : へええ。

A : あいつら、世界中飛び回っていて、搾取するんだけど、かならずやるのが、その国の教育と医療を潰すこと、ですね。ギリシャや、アイスランドではやられた。同じことはリビアにも言えるんですよ。カダフィは独裁者だといわれ、殺されたけど実はあの国教育と医療は無料だった。家を建てると国から補助金がでた。そんな夢の国を国連はつぶした。

K : 教育はまもらないと・・・。

A : でも逆もまた真なりで、日本じゃ人口の減少や高齢化が話題になっているけど、世界じゃ人口爆発が問題になってる。

S : 中国なんか、それで一人っ子政策だ。

A : アフリカじゃ突然電気が流れるフェンスができて野生動物が水飲めなくなったりしてるし、インドなんかでも野生のゾウとのあいだにいさかいが生じてる。

K : 福島じゃ町を野生のイノシシが闊歩してるがな。

S : 日本ではどうなんだろう？

教育はかわったか？

- K：いまの子どもたちは友達づくりが下手なんじゃないか？できてないんじゃないか、ということなんだけど。
- A：変わってないと思う。でも友達ってなんか仕事があって初めてできるものじゃないの？そういう点では現代ってべつに友達なくたって、部屋にこもってゲームやってたって問題ないんじゃないかな？
- K：友達はできない。
- A：友達ってのは、なんらかの仕事があって、仲間になるんであって、例えば、地引き網みたい仲間が、友がいないと漁ができないときに必要になるんであって、そうじゃない現代って必ずしも友達が必要じゃないんじゃないか？
- K：いや、学校では昔から、なんらかのグループがあって、親分的にまとめる子がいて、それが、リーダーとなっていた部分があったと思う。
- H：この会（深層心理の会）もはじめはそういう性格もあった。この会の中心はほとんどが教師で、社会のなかでリーダーを育てないととんでもないことになる、という発想があった。そうでないと、たとえばいまの首相みたいに一般国民のことなんかおかまいなし、という人が出てくる。
- A：まあ、僕も教師ですが、いまはむしろ生徒ひとり、ひとり、その子のよいところを引き出すという考えでやっている。極端な話、不登校でもゲームに夢中でも自分なりのしごとがあればいい。コンピューターのプログラミングなんか引きこもってこつこつやるという感じがある。
- S：それで大丈夫なんだろうか？
- A：これから、A I の時代だと思いますから。
- S：いや、A I は人間を越えられない。囲碁なんかA I が勝っているいるという印象があるけど創造性あって勝っているわけじゃない。
- A：でも、コンピューターの集積回路って人間の神経回路と同じでしょ。脳内にデータが蓄積されていく。これからはA I の時代。A I は疲れない。人間の仕事はとってかわられる。
- S：そんなことはない。あれは単なるデータの塊だ。創造性はない。
- K：Sさん工学だからなあ。データのとりまとめなんかすごいよ。
- A：でも、A I なんか自分でデータ集めて自分で自分を修復したり、増殖したりできるんでしょ。
- S：いや、とてもとても、そこまでは至っていない。
- A：でも、データ処理、得意なんだから、産業の基幹的な部分はA I がやって、人間はA I から食事をもらって・・・。
- S：そうはならない、農業にはいろいろな要素がからむから。
- A：でも実際、農業なんて変わりつつあるんじゃないですか。ハウス建てて、中の環境条件を機械的に管理して、ハウスだから害虫なんか入らないし、
- S：「A I」とかもてはやされるけども、とてもそんな高いレベルまで行ってないように思う。集積回路がデータを処理しているだけの話で、人間のような創造性といった部分は無いように思う。人間にはそうしたデータ処理に加えてプラスアルファな部分がある。なんだろうな、人間の脳には、未開発な部分があるんだよ。



超ひも理論

H : え～、健康法ですが、「超ひも理論」を学びたいとおもいます。

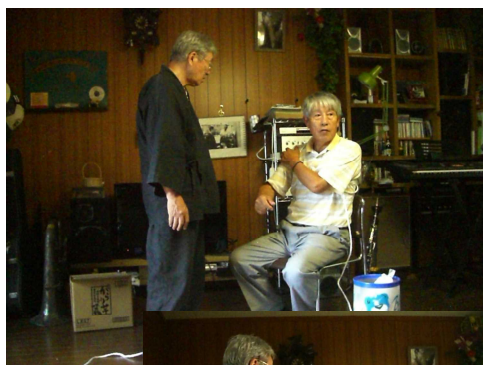
ご存知の通り私は様々な健康法をためしてまいりましたし、操体法による健康講座も開いているわけです。学ぶのに難しく身につけませんね。

このたび、「ヒモトレ」入門 尾関勲著 を知りました。私たちの身体は、絶妙なバランスで成り立っています。その調整法がいろいろ有るわけで、ひもはその調整役なんですね。ひもを腰に巻いてゆるく結んでおくと、すごく楽に体が動くこと知りました。なんででしょうね？ひもに気が行くからでしょうか、余分な力を入れなくても立ったり、作業したりと、非常に日常の動きが楽なんですよ。

この紐の締め方には、2種類あって、腰やたすき掛けなどには、ゆるく巻きます。もう一つは、たとえば、いわゆる五十肩なんて症状がありますけども、年取ってくると、肩が理由もなく痛くなって、上がらなくなることがありますよね？Aさんは、60肩でしたね。Aさんちょっと両手貸してくれる？両腕を肩幅に開いてもらって結び、ゆっくりひもが弛まないように両手を上げて下さい。あ～ら不思議、らく～に腕が上がる。

A : あ、ほ～んと。上がった。

H : きつく縛らなくっていいんですよ。輪を作ってその中に両腕を入れ、ゆっくり上げれば、上がりますから。ということでこの「超ひも理論」は、簡単で難しくありませんので、皆さんに広めていきたいと思ってます。まず手始めに近所の女性会で講義するつもりです。(その後、写真にあるように実践が行われた。)



NPO法人 JDP

(非営利特定活動法人日本深層心理研究会)

事務所：〒461-0018 名古屋市東区主税町二丁目38番 主税町シティハウス803号

tel・fax ; 052-961-9510 e-mail ; npojdp@aol.com

ホームページ ; <http://www.npojdp.org>